

第 3 回 館山市議会定例会会議録
(第 4 号)

1 昭和61年9月18日(木曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 24名

1番 神田 守隆
3番 山中金治郎
5番 横溝 功
7番 榎本 春光
9番 福原 勤
11番 飯田 義男
14番 伊藤幸太郎
16番 松下 正己
19番 黒川 平治
22番 林 豊
24番 流山源次郎
26番 石井 正

2番 田沢 勝信
4番 小宮 利夫
6番 生稻 隆
8番 日下 君敏
10番 川名 正二
12番 石井 謀
15番 渡辺 昭夫
17番 近藤 好雄
21番 吉田勇治郎
23番 伊賀 多朗
25番 五十嵐 昇
27番 安西 益男

1 欠席議員 2名

13番 石井 昌治

20番 石井 武敏

1 出席説明員

市長 半澤 良一
収入役 山田 俊康
総務部長 飯野 芳郎
経済部長 安西 良一
教育委員会 会長 福原 修

助役 小倉 澄男
市長公室長 斉藤 武男
民生部長 渡辺 弘
水道課長 石井 敏夫

1 出席事務局職員

第1号に同じ

1 議事日程(第4号)

昭和61年9月18日午前10時開議

認定第1号 昭和60年度館山市一般会計歳入歳出決算
の認定について

認定第2号 昭和60年度館山市国民健康保険特別会計
歳入歳出決算の認定について

日程第 1

- 認定第 3 号 昭和 6 0 年度館山市老人保健特別会計歳入歳出決算の認定について
- 認定第 4 号 昭和 6 0 年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決算の認定について
- 認定第 5 号 昭和 6 0 年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について
- 認定第 6 号 昭和 6 0 年度館山市学童災害共済事業特別会計歳入歳出決算の認定について
- 認定第 7 号 昭和 6 0 年度館山市水道事業特別会計収支決算の認定について
- 認定第 8 号 昭和 6 0 年度館山市国民宿舎事業特別会計収支決算の認定について

開 議 午前 1 0 時 0 4 分

○議長（伊賀多朗君） 本日の出席議員数 2 4 名、これより第 3 回市議会定例会第 4 日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

○議長（伊賀多朗君） 日程第 1、認定第 1 号乃至認定第 8 号昭和 6 0 年度一般会計及び各特別会計決算を一括して議題といたします。

質 疑 応 答

○議長（伊賀多朗君） これより質疑を行います。

発言の際はページをお示しくくださるようお願いいたします。

通告がありましたので発言を許します。

1 番議員神田守隆君。御登壇願います。

（1 番議員神田守隆君登壇）

○1 番（神田守隆君） 認定第 1 号及び認定第 2 号、そして認定第 7 号各認定議案につきまして、通告した趣旨に沿いまして御質問を申し上げます。

まず、決算書の15頁であります。市税の徴収率が大変低下している傾向がここ続いているわけでありましたが、本年度の収納割合は92.5%で59年度92.9%からさらに0.4ポイント下がっているわけがあります。こうした収納割合のここ3年間どのように推移しているのか御説明をいただきたいと思います。

次に、こうした収納割合の特に悪い税目については、どういう税目になっておるのか。

第3点目に、この収納割合について県下28市、他市との比較で当市はどういうところにあるのか、比較してどうなのかという点ですね。

第4点目に、監査委員の審査意見書では、「税負担の公平の見地から適切な対策を立て、課税客体の把握と、徴収率の向上に一層の努力をされるよう要望する」ということで審査意見が述べられているわけですが、これについてどのように受け止めているのかお聞かせいただきたいと思います。

次に、第2点、決算書の21頁であります。住宅使用料に関してであります。市営住宅の入居にあたって3ヵ月分の敷金を支払うということが条例でうたっているわけでありましたが、この敷金については市営住宅使用料として歳入されているのかどうか。そして、この敷金の残高は幾らになっておるか。また、その運用益については、居住者の共同の利便に供するとなっているわけでありましたが、これは具体的にどのような運用がされているのか御説明をいただきたいと思います。

次に、市営住宅の減免の規定についてお尋ねをいたします。60年4月から県は県営住宅につき障害者の減免を実施しているわけでありましたが、これについて60年の3月市議会で御要望したところでありましたが、市においても検討したいとのお答えでありました。どのような検討をされてきたのかお聞かせをいただきたいと思います。

次に、第3点目でありましたが、決算書の32頁であります。不動産の売払収入ということで土地の売却をしたわけでありまして。当初予算で719万5000円、決算では284万2000円余ということで、予算と実績が大きく違ったわけでありましたが、その理由について御説明をいただきたいと思います。

次に、今回売却したその土地は、どこ土地を何平米売ったのか、何件件数があるのかお聞かせいただきたいと思います。

3番目に、市の財産の売却である以上、それなりの目的があつてのものと思うわけでありましたが、売却の目的について御説明をいただきたいと思います。

次に、決算書の74頁であります。環境衛生費の中の委託料ということで河川等浄化対策調査委託料345万円が支出されているわけであります。60年度については衛生課が改組をされて環境生活課が発足した年度であります。環境生活課の発足にあたりまして、その最大の課題は生活雑排水の浄化計画の早期策定と、し尿浄化槽の適切な維持管理の徹底を図ることであると市長は答弁をされているわけであります。河川等浄化対策調査委託料の支出もこうした視点に立っての施策の一環と思うわけでありましたが、きれいな海と河川を取り戻す上でこの浄化対策の基本計画策定はその後どのように進展をしておるのか、方向づけなり基本的考え方なり、どの段階にまできているのか御説明をいただきたいと思います。

次に、135頁、国民健康保険税の滞納の状況についてであります。60年度は国庫負担率の切り下げの影響が深刻になった中で17%の国保税の引き上げが図られたわけでありまして。すでに国保税については負担の限界を越えている、引き上げを抑えるべきだとこれまでたびたび主張してきたわけでありまして。こうした状況は端的に滞納の状況にあらわれてきていると思います。例えば、2億6100万円余の滞納額、これは対前年度に比べますと23%もふえているわけでありまして。現年分の課税でみますと対前年度32%、文字どおり激増といつても過言ではない異常な事態と言わざるを得ません。

こうした点から、御質問するわけでありまして、第1点は、現年分の収入未済は一般被保険者で9544万6000円余、退職被保険者等で239万4000円余、計9784万円余が出てきているわけでありまして、この現年分の滞納——世帯数に直すと国保加入者の何%に値するのかお尋ねをしたいと思います。

次に、館山市の国保税はこの年引き上げを図った中で、県下でどのく

らの順序に現在なっておるのか。1世帯当たりで比較しますと第何位なのかお答えいただきたいと思います。

3番目に、今年度は昨年度に続き19%の国保税の値上げを実施したわけですが、滞納の激増が憂慮されるわけであります。現時点における収納状況は前年度に比較してどのように推移をしておるのかお聞かせいただきたいと思います。

次に、水道事業会計決算についてでございます。認定の第7号になりますが、本年は水道料金の値上げが実施されたわけで、私は料金体系の問題についてより強力な節水型の料金体系をとるべきであると主張したわけであります。具体的には1㍓から8㍓までの生活に最低限必要な料金については県営水道並みに引き下げる、逆に500㍓以上の使用については値上げ案の260円よりさらに引き上げ、県営水道の350円に近い320円にまで引き上げるなどということも提案をしたわけですが、現在依然として水資源の問題は懸案事項だというふうに理解をするわけであります。当面は現状の水資源を効率的に有効に活用するということが大変重要だろうと思います。そうした点から節水の促進については現時点においても重要な行政上の課題であると理解するわけです。

その点で、大口使用者の節水対策はどうであったのか。500㍓以上の水料金はトン当たり210円から260円と24%の引き上げがこの年に実施されたわけですが、こうした引き上げが大口使用者の節水を促すものとなったのかどうなのか。こういう点から大口使用者の水使用の状況について御説明いただきたいと思うのであります。

また、市の大口使用者に対する節水の働きかけ、こうしたものについてもこの際あわせてお答えいただければと思うわけであります。

以上、6点にわたって御質問いたしました。御答弁によりまして再質問させていただきます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えをいたします。

まず、市税徴収率の低下についての御質問でございますが、昭和60年度決算におきます市税の徴収率は現年課税分97.41%、滞納繰越分21.65%、合計92.45%でございます。それに対しまして昭

和 59 年度は現年課税分 96.81%、滞納繰越分 29.40%、合計 92.86%でございまして、現年課税分での 0.6 ポイントの伸び、滞納繰越分で 7.75 ポイントの落ち込みとなり、合計で 0.41 ポイントの落ち込みとなったわけでございます。

なお、57 年度の徴収率は 94.37%、58 年度は 93.91%、59 年度は 92.86%でございましたので、それぞれ前年対比では 57 年度が 0.06 ポイントの増、58 年度が 0.46 ポイント、59 年度が 1.05 ポイントの落ち込みでございました。

税目別に見ますと、徴収率の低かった税目は特別土地保有税が 75.85%と一番低く、次いで都市計画税 88.47%、固定資産税 88.95%でございました。

また、県下 28 市の市税合計徴収率は 94.86%で、前年が 95%でございましたので、0.14 ポイントの落ち込みでございました。

なお、県下で最も落ち込み幅の激しかった市は 2 市でございまして、0.7 ポイントの落ち込みでございました。次いで 0.6 ポイントが 2 市、0.5 ポイントが 1 市でございました。

徴収率の向上対策につきましては、滞納の発生を未然に防ぐため、従来からの納期内納付の推進を図るべく納税組合の活用と口座振替等利用の促進をしております。

滞納者に対しましては、以前から時期にあわせまして強調月間を設定いたしまして、担当職員の意欲の向上を図るとともに、本年当初から徴収業務用自動車を購入いたしまして機動力を高め、また去る 5 月には国保税につきまして税務課、市民課の職員の応援によりまして戸別訪問による納税相談を実施するなど、従来にも増して戸別訪問による納税相談を強化しておりますが、市税につきましても全職員を挙げて臨戸徴収の応援体制実施の是非を検討しているところでございます。

次に、住宅使用料についての御質問でございますが、第 1 点として、資金の決算処理とその運用について御質問がございましたが、歳入歳出外現金として保管しておりまして、利子は市預金利子として一般会計に繰り入れております。利子の運用につきましては、住宅費中、原材料費等の一部として使用をいたしております。

第2点として、障害者の減免についてでございますが、本市におきましては特に障害者としての減免規定はございませんが、収入の少ない世帯に対しては減免基準により減免をしているところでございます。

次に、土地売払収入についてでございますが、決算と予算の差は何かということでございますが、当初予算におきまして719万5000円を計上し、そのうち710万円につきまして旧正木処理場の一部を館山バイパス用地として売却する予定でございましたが、その処分が次年度以降にずれ込んだものでございます。

次に、60年度におきます土地売払収入の内容についてでございますが、過年度に売却した土地に対する分割納入分9万5000円のほかは土地3件売却でいずれも買い主に隣接した廃道敷を処分したものでございまして、面積は198.87㎡で金額は274万7352円となっております。

次に、河川等浄化対策調査費についてでございますが、市内河川主要下水路を33流域に区分し、河川等に負荷している汚濁量を推定し、水質の実測調査を行い、現況の水質汚濁及びその要因について調査を実施いたしました。

調査の結果に基づきまして各排水路におきます環境基準を目標とする削減汚濁負荷量を達成するための処理対策基本計画の策定を進めているところでございます。この計画の中で、共同処理施設モデルプラントを昭和62年度実施設計、昭和63年度着手を予定しております。

また、当面の対策として、河川直接浄化、土壌浄化方式のモデル施設の設置、あるいは発生源対策として台所の水きりごみ袋の使用によるモデル地区設置等を行い、効果測定を実施し、家庭雑排水に対する市民の認識を深め、浄化に対する高揚を図ってまいります。

次に、国保税の徴収率についてでございますが、まず昭和60年度国保税現年課税分滞納世帯が国保加入世帯に占める割合でございまして、国保加入世帯1万4世帯で滞納世帯数が1388世帯でございまして13.87%となっております。

次に、昭和60年度世帯当たり国保税調定額の28市中の順位でございまして、12万817円で7番目となっております。

昭和61年度8月末現在と昭和60年度同月末の徴収率の比較でございますが、61年度8月末の現年課税分は29.05%、滞納繰越分8.23%、合計25.72%に對しまして、昭和60年度は現年課税分28.18%、滞納繰越分6.65%、合計24.96%でございますので0.76%の伸びとなっております。

次に、水道会計についてでございますが、大口使用者の節水はどうかという御質問でございますが、日ごろから節水の呼びかけを実施しているところでございますが、60年度使用水量実績を見ますと、月500以上の大口使用者は43件で水量では総給水量の20.1%を占め、58年度の21.1%に對し1%の減を示し、また最近6カ月間の検針による大口使用者54件について前年同期と比較をいたしますと、水量にして0.9%の減を示しております。したがいまして、わずかではあります但し使用者の節水意識とその効果があらわれてきているものと受けとめております。

以上、答弁を終わります。

◎1番(神田守隆君)　そうすると、市営住宅の使用料についてでありますけれども、決算外に受け取っているということで、歳入には計上されていないんだということでありまして、残高が幾らあるのかお聞かせをいただきたいと思うんです。

それから、この運用についてはどのような運用が具体的にされておるのか。先ほど運用益は原材料費等に繰り入れているんだというようなお話がありましたけれども、具体的には残高に對してどんな運用があったというふうに認識をされているのかお聞かせいただきたいと思ひます。

それから、河川等浄化対策の關係であります但し、62年度で共同処理のモデルプラントを計画をされておる、こういうお話でありましたけれども、この共同処理のモデルプラントについて少し御説明をいただきたいと思ひます。どのような内容のものなのか。非常に市民の関心の高いところでありますので、少し具体的な内容についてお聞かせをいただきたい。

それと、予算の審査の中で大分論議された内容としてあるわけですが

れども、戸別下水道というようなことで——海や川の浄化対策として公共下水道を初めとしていろんな手法が論議されてきた中に1つは戸別下水道というような考え方、家庭用下水処理装置あるいは家庭用の合併処理槽とでもいうべきものについて論議をされて、極めて有効な浄化対策として市長も随分注目をされて、テストプラントの設置を含めて検討したいというような、そのとき御答弁をいただいているわけですが、国のレベルでもこの戸別の処理装置ということで大変検討が進んでいるやに聞いているんですが、こうした国の動向とも相まって国が助成策をとるというようなことも大分検討されているという段階にあるようですが、市としてもこういう動向を踏まえて積極的にやはり検討をされるべきではないか、こういうふうに思うんですが、こうした点についての検討の経緯をお聞かせいただきたいと思うんです。

それから、国保税の滞納状況について13.87%の世帯が現年分で滞納を抱えておる、約14%、7軒に1軒というようになってきているわけで、大変なやはり国保税の負担というのは滞納という形で出てきている。これまで随分いろんな議論の中で、私どもは負担の限界を越えたんだ、こういう認識を持つべきだということを再三主張してきたわけですが、こうした決算の数字踏まえまして負担の限界を越えた、こういうような認識について市長さんはどういうふうに認識されておられますか。大変市長さん微妙な表現の中で今までそのことについてはお認めになっていなかったわけですが、どういうふうにお考えか。

それから、私、ここまで国保財政が厳しくなった中で、不納欠損の金額も1600万ですか、そして現年分の収入未済等が非常に昨年度の60年度では大幅にふえたということは、3年乃至4年という後には国保税の不納欠損という形で大幅な欠損が出てくるという危惧を感じるわけです。そういうことでやはり不納欠損の問題については加入者が相互扶助ということでこれまで負担をしてきた、こういう実情でありますけれども、しかしこうした負担の限界という認識と一体のものとして不納欠損処分の金額については一般財源から補てんをするということは考えざるを得ないんじゃないか。決して国保会計の独立採算だというような趣旨と今の現状の中では一般財源からするという点についてはやむを得

ない処置として認められるのではないか。市民の理解も得られるのではないか。こういうふうに思うんですが、こういう点についてどういうふうに決算の数字からお考えになるのか。

水道会計については、節水の点については若干ではありますが、一般家庭等が通常では年々使用水量がふえていくという傾向の中で、大口の使用者が若干とはいえ前年より少なくなったということはそれはそれなりに大事なことで、今後ともこうした大口使用者に向けての節水対策ということで市が積極的に努力をされるよう要望しておきたいと思っています。

○経済部長（安西良一君） ただいまの御質問の中で、残高についてでございますが、敷金の総額といたしまして現在53万8200円でございます。保管の内訳といたしまして450万円を定期として預けてございます。なお、残りの81万8200円は普通預金として預けてございます。これはいつ住居の方が出られてもいいようにというようなことでそのような方法をとってございます。また定期預金につきましては450万を2口に分けてございます。1口は200万円、もう1つは250万円というような方法で分けてございます。

なお、それにつきましての運用をいたしましての利益といいたしか、利息でございますが、1口の方が9万5000円60年度で利息として受けてございます。また、もう1口の方が11万8750円でございます。合計いたしまして60年度分では21万3750円でございます。

以上でございます。

○民生部長（渡辺 弘君） まず、第1点の共同プラントの具体的な方策は何かというお尋ねでございますが、62年度に実施設計をし、63年度に着手する予定でおりますが、厚生省の補助金との兼ね合いもございます。

その内容といたしましては、排水路取水共同処理施設といたしまして現在考えておりますのは、比較的汚濁負荷人口の多い三軒町の排水路の流末地点——これは海岸でございますけれども、そこに曝気式の浄化槽を設けまして、生活系雑排水の汚濁の除去を図ってまいりたい、このよ

うに考えております。

それから、第2点目の戸別下水処理施設の検討の経緯ということですが、61年度に土壌浄化方式のモデル施設といたしまして現在土地の選定をしております無放流、放流型ともに2基ずつでございますが、その推進を図りますとともに、過日厚生省、それから建設省、環境庁で62年度の予算の概算要求案を作成する際に、戸別の合併浄化槽の設置についての補助あるいは融資についての計画がなされております。

それを見ますと、厚生省につきましては市町村で生活雑排水処理対策の一環として合併処理浄化槽の設置を促進するために設置者に対して補助制度を実施する場合には国が一定率の補助を行おうとするものでございます。また、建設省につきましては、国民金融公庫の金融対象に加えるということ。それから、環境庁につきましては、公害防止事業団の融資制度の適用を考えているようでございますが、いずれにいたしましても概算要求案の作成の段階での計画でございまして、今後それぞれ大蔵省との折衝の中でどのような調整が図れるか見守ってまいりたいと考えておりますが、いまだその具体的な施策については明確ではございません。したがって、市といたしましては今後の国の方策、またそれを受けての県の対策を見極めながら検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○市長（半澤良一君） 国保税の負担の限界論でございしますが、たびたび神田議員さんから御質問がございましたし、私もその都度御答弁申し上げているところでございます。私個人の感じといたしましては確かに限界に近いのではないかというような気はいたしますけれども、果たしてどこが限界であるかということについての科学的な根拠がなかなか見出せないわけでございます。ただ、一般論として言いますと、日本の税その他公的負担が36%、アメリカが38%ですか、イギリス、ドイツ、フランスはいずれも50%を超えているというような世界的な情勢もあるわけでございまして、果たして一体、今負担の限界がどれくらいにきているのか、現在の負担がどれくらいになっているのか、それが限界にきているのかどうかということについてはやはり私も科学的な断定がで

きないわけでございます。

現在、国保税の問題については、老人保健法等改正案がさきの国会で審議未了になりましたので、今国会に提出されるというように考えております、そう聞いておりますので、その結果をまって今後の国保税の徴収について考えたいと考えております。

○総務部長（飯野芳郎君） 第2点目の国保の御質問でございますけれども、不納欠損部分について非常に最近多額になっているということで、一般会計から補てんすべきではないかという御質問でございますけれども、低所得者につきましては税の負担軽減措置も講じておることですし、今市長が申し上げましたとおり相互扶助の精神に基づきまして国保会計を運営していきたいというふうに考えておりますので、今のところこれらにつきましては一般会計の補てんはないものというふうに考えております。

○1番（神田守隆君） 河川等浄化対策の関係で、共同処理モデルプラントについてはまた別の機会に御説明いただくようにしたいと思います。

戸別処理の合併槽については、来年度の予算に現実的に——概算要求の段階ですからどうこうということで、まだ推移を見なければわからぬというのはそのとおりだと思うんです。しかし、60年度予算審査の中では具体的にテストプラントの設置も含めて検討したいという御答弁ただいていたわけですから、それからみれば随分よそ待ちだなということで、国の動向、県の動向ということでは一歩後退したんじゃないかなという気もするわけなんです、国の施策や何か、概算要求という段階でのるぐらいにまでこの問題が非常にどこの地域でも問題になってきた、国政レベルで問題になってきた、そういうふうに理解をすることではないか。

市としてはやはり——もちろん、第1点としては、国がそうした施策をとる、例えば、厚生省が助成事業にするというふうにした場合に市は直ちにこれを取り上げますかどうか。

それから、もう1点、今後の推移によっては来年度の概算要求にのらない場合もあるんですけれども、その場合でもテストプラントの設置ぐらいのことについてはもう一度改めて検討してはどうかと思うんですが、

その点についてはどうか。

それから、国保税の問題でありますけれども、従来の御答弁とそんなに変わらない御答弁で大変残念なんです、市長さんは公的負担が限界かどうかということで一般論を言われているんですけれども、60年度の現年分の課税について見ますと対前年度の比較で32%ふえているわけです。これは異常だとしか言いようがない。というのは、60年度は17%の値上げをしたということが相当きいたんではないかというふうに私は理解するんです。大変なことだろうというふうに思うんです。

そういう点で、一般論でおっしゃられても大変残念なんですけれども、現年分課税が17%の値上げという中で滞納分が32%もふえた、この1点についてやはり負担の限界ということが——どこに線を引くんだと、理論的、科学的にどうなんだという議論は確かにそれはそれとして必要だと思いますけれども、現実には大幅な激増という事態についてどういふふうに評価されるのか、その1点だけお聞かせをいただきたいと思います。

○市長（半澤良一君） 確かに一般論というふうに受け取られてもやむを得ない面もありますけれども、この前の議会で御答弁申し上げましたように、館山市において一体負担がどれくらいになっているかということ調べようと思ったわけですが、なかなかそれが出てこない。非常に学問的な知識、経験がないと算出できないものですからできなかったわけでございます。私の感じとしては神田議員さんのおっしゃるように、私も最初に申し上げましたように、そういう負担が限界に近づいているんじゃないかという感じは持っておりますけれども、果たして限界であるかどうか断定する勇気が今のところないわけでございます。

○民生部長（渡辺 弘君） まず、61年度におきまして戸別の処理方式についてのモデルプラントということでございますが、これは先ほども申し上げましたように放流式、無放流式の土壌浄化方式による汚濁の除去を考えてのことでございます。

それから、テストプラントとしての小型合併槽の設置についてどう考えるんだということでございますが、まずこの小型合併浄化槽につきまして、浄化槽の形式の認定は建設大臣が行うということになっておりま

す。厚生省それから建設省、環境庁が打ち出しておりますこの小型合併浄化槽の形式の認定がなされているのかどうか、どの程度まで研究が進んでいるのかどうか、それらにつきましても明確ではございませんので、それらを検討した上で、でき得るならばモデルプラントとして設置を試みたいと思いますが、従来の合併浄化槽ですともちろんある程度の用地を持っていなければならないわけでございます。この小型の合併浄化槽につきましてもどの程度の用地が必要なのか、それらの検討もしてまいらなければならない、このように考えております。

以上でございます。

○議長（伊賀多朗君） 以上で1番議員君の質疑を終わります。

以上で通告による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。

○11番（飯田義男君） 48町の地方バス路線の維持及びそれに対する補助金の386万6090円でございますけれども、これはどういう基準、どういう計算によって支出されており、今後これはどのようになっているのか。なお、これに対する国及び県の補助金についてはおるのか。昨年は577万出て、だんだん減ってはおるんですけれども、これに対して今後の状況についてお教え願いたいと思います。

それから、もう1つ、51町の使用料賃借料——これは市庁舎で使っております電算機等の使用料、借上料でございますけれども、本年度5053万3000円計上されております。昨年よりやや異常といっているくらい多いのでございますけれども、これは新しい機種にかえたためなのか、なお、この賃貸料は年々このように上がっていくのか、この点について御説明を願いたいと思います。

それから、次に83町、農林関係の費用でございますけれども、負担金補助及び交付金のうちイチゴの水耕栽培に対する補助金が423万2000円支出されておりますけれども、その成果、いわゆる結果について御説明を願いたいと思います。なお、その結果がどうであるか、それによって今後も検討し、研究を続けていくのかどうか。また、今後このような新しい施策について、試験について、市はどのように前向きで検討されていくのかもあわせて承りたいと思います。

その次に、同じ項目で農用地の流動化奨励交付金が611万7600円、これに対する具体的な説明をしていただきたいと思います。

以上でございます。

○市長公室長（斎藤武男君） まず、48分の地方バス路線の維持費の補助金の関係でございますが、これは千葉県特定地方バス路線運行費補助金交付要綱に基づきまして実施しておるものでございます。いわゆる自家用車の増加に伴いまして、地方バス路線については輸送の人員の減少による事業経営が困難というようなことで、地域住民に必要な路線について補助金制度を設けて運行を維持しておるというものでございます。

内容的には、第2種生活路線、それから第3種生活路線というものがございまして、県知事が認める区域の赤字バス路線に対して国、県、市町村——これは通過市町村キロ数あん分でございますが——で実施しておるものでございます。

それから、第3種の生活路線でございますが、やはり経常収益が経常経費に満たない路線で平均乗車客密度が5人未満の場合に国、県が不足額の4分の1、市町村が2分の1をそれぞれ補助をしておるというような内容のものでございます。

○総務部長（飯野芳郎君） 51分の電子計算機費の中の使用料の関係でございますけれども、61年度以降も経費が上がっていくかというお尋ねでございますが、この点に関しましてはOA化を進めている中で、大型機種につきましては60年の10月から新しい機種の変更をいたしましてレベルアップをしたもので、それで使用料が上がったようになっております。61年度以降の経費の関係につきましては、大型機種も入りましたので、これからは小さいOA化のワープロとかパソコンというものをふやしていこうというふうに考えておりまして、61年度はとりあえずパソコンにつきましては9台あったものを2台ふやしまして11台にしております。ということで、今後大型機種が入りましたので、電算機経費の増額につきましては今後ないものと考えております。

○経済部長（安西良一君） イチゴの水耕栽培についてのお尋ねでございますが、60年度は6件で面積が5039㎡でございます。この6件

の総事業費といたしましては2116万2000円かかっておるわけでございます。補助金といたしましてはその20%を補助してございます。

この事業の目的といたしますと、まず連作の障害をなくするというのが第1点でございます。それから、もう1点は、省力化といいたしましうか、非常にイチゴというのは摘み取るにも、いろいろと草むしりをするのにも非常にこごんだりして腰が痛くなるというようなことから、そういうものをなくしていこうというようなことも兼ねあわせまして試験的に実施したものでございます。

今年度の問題点といたしまして挙がってまいりましたのが、水質がよくないために肥料設計といいたしましうか、そういったものに若干これから技術的にもう少し研究をしなければいけないという問題が出てきております。

耕作の標準反収といたしますと、約3000kgを予定したわけでございますが、それに対しまして1人の方が大変よかったということで成果が出ております。やや良という方が2人の方が出ております。それからやや不良という方が1人、不良であったという方——これはやはり肥料の研究がまだ足りないというようなことで、肥料による故障といいたしましうか、そういうものが2件ございました。

また、これらについて将来どうするのかというようなお話でございましたが、イチゴ栽培につきましては大変観光客もふえております。そういうようなことからでき得れば省力化等も進めまして、こうしたものにもう一役かかっていただきたいということで、でき得ればもう少し続けたいというふうに考えております。

それから、農用地流動化の奨励金の交付でございますが、これにつきましては交付の理由といたしますと、農地の有効利用と経営規模の拡大を図るために農地の賃貸の推進を図っていく、こういうことで土地所有者に対しまして奨励金を交付するという制度でございます。

そして、これらの見通しでございますが、農地の利用度の低下あるいは遊休地の解消、農地の有効利用と規模の拡大というようなことで、この奨励交付をいたしたわけでございます。これは56年度から引き続いて実施している事業でございます。

以上でございます。

◎ 11 番（飯田義男君） 地方バス路線の補助金の件でございますけれども、国とか県からいわゆる補助があって、それに対して市が何割負担をするとかということなんですか。それとも、全く市独自の予算の中から支出するものか。

それと、関係市町村ももちろん同じ要領でやっておると思いますけれども、将来だんだん減っていく傾向にあるのか。路線が解除になればもちろん減っていくわけですがけれども、どういう傾向にあるかそれも承りたいと思います。

それから、電算機の使用関係ですがけれども、機種を選定についても相当検討をされて決定をされておると思います。なお、全国の市町村関係のこういう連絡会等もあると思いますけれども、賃貸契約等に対してどのような交渉をし、どのような検討をした上で料金を設定しているのか。これもひとつあわせて承りたいと思います。

それから、イチゴの水耕栽培は1つの例として非常に前向きでいいことだと思いますけれども、今、私が承ったのは成果がどうであったか、いわゆる将来希望が持てるのかどうなのか、水質が合わないならばどのような水質にしたらいいのかという具体的な将来に対する見通しを私は承っておるわけでございますから、その点についてもう少し突っ込んで承りたいと思います。

◎ 市長公室長（斎藤武男君） 地方バス路線の関係でございますが、いわゆる第2種生活路線ということでございますけれども、先ほど申し上げましたように、県の特定地方バス路線運行費補助金交付要綱に基づきまして実施しておるものでございまして、第2種生活路線というものは基準がございまして、平均乗車密度が5人以上15人未満、それから1日の運行回数が10回未満のものということになっておるわけでございます。それから、3種の生活路線の関係でございますが、これは平均乗車密度が5人未満の場合ということでございます。

補助率の関係でございますが、2種の路線の関係につきましては、国の関係では経常費用の8分の1、県が4分の1、市が8分の1、3種につきましては、国が赤字額の4分の1、県が4分の1、市が2分の1と

というようなことになっておるわけでございます。

路線の関係でございますが、59年度では2種の路線が4路線ございました。平久里車庫線、荒川、細田、川谷、それから3種が八束線。それから60年でございますが、2種路線が平久里車庫前、荒川、細田、3種の関係が川谷ということで、2種が4つが3に、3種が1つというようなことで、いろいろバス会社につきましても経営努力をいたしまして、この赤字関係については極力運行の中で経営努力をしていきたいというような考え方の中で運行しているようでございます。

◎総務部長（飯野芳郎君） 機種を選定にあたりましては、従来から当市の汎用コンピューターにつきましては富士通を採用しておりますので、従来から入れております業務につきましても全部この機種に基づきましてプログラムを組んでおりますので、新しい汎用コンピューターにつきましても富士通のファコムM160を10月から導入したわけでございます。

それから、使用料の関係でございますけれども、従来の機種につきましては、59年度は約3800万の使用料を払っていたわけでございますけれども、大型コンピューターになってもこれを大幅にアップしないような形で価格交渉をやりまして、現在のところこの大型コンピューターについても大して使用料のアップにならないような形で契約してございます。

以上でございます。

◎経済部長（安西良一君） 水質がよくなかったということが1つの理由でございますが、これからその水質をさらに分析をいたしまして、肥料濃度の研究、こういったものをさらに研究いたしまして実施すれば技術的にも十分それは賄えるということで、普及事務所の方とも相談いたしまして、現在その研究をしてもらっている段階でございます。

以上でございます。

◎11番（飯田義男君） 電算機等の借り上げ使用料等についてはある程度わかりましたけれども、1つをとらえてみて、ワードプロセッサの借上料が去年は412万5000円に対して501万円に上がっている、これは同じ機種でこれだけ上がったのかどうなのか、将来もこのような

形で上がっていくのかどうか、それが私は知りたいわけでございますので、その点説明をしていただきたい。

◎総務部長（飯野芳郎君） ワープロにつきましては、59年度は9台あったわけでございますけれども、60年度は1台ふえまして10台になったわけです。その関係で使用料がアップしているわけでございます。

◎11番（飯田義男君） 台数がふえたからふえたということですね。料金は同じということ。

それから、一番最後に大事なことは、私は市長さんに直接お伺いしたいんですが、イチゴの水耕栽培というのは新しい時代に即応した1つの試みだったと思います。それが必ずしも今は成功していなくても将来成功する可能性もあるかもしれないということを考えて、将来、新しい時代に即応した、いわゆる21世紀はバイオの時代ということもいわれておりますので、こういういろいろな農作物、あるいは魚介類についてもそうでございますけれども、そういう検討をする前向きの施策を考慮されるかどうか。なお、将来これを意欲的にやっていただきたいということを希望したいと思うんですが、いかがでございましょうか。

◎市長（半澤良一君） 御指摘のとおりでございまして、第1次産業でございます農業、漁業も単に米をつくっている、それでいいという時代ではないことは御承知のとおりでございまして、やはり館山市の気候条件、風土、その他に適合した農業、あるいは花卉栽培、そういう農業経営があるべきだというふうに考えております。特に、若い方々に大いに期待をいたしまして、企画研究会といったようなものもつくっていただいて、それぞれ勉強していただいておりますので、そういう若い人たちの力が伸びるような方向で今後政策を進めていきたいというふうに考えております。

◎11番（飯田義男君） やや力強い御答弁をいただきましたが、とにかく若い世代の研究の機関、あるいは研修の機会をつくっていただきたい、またそれに対する予算等の措置も考えていただきたいということを特に要望して終わりたいと思います。

◎議長（伊賀多朗君） 他に御質疑ございませんか。

◎2番（田沢勝信君） 私は、認定第1号の地方バス路線維持補助金に

関連しまして1点について質問をいたします。

さきの一般質問の中で、私は国鉄バスの貸し切りバスの安全運行の問題について再質問をいたしました。その趣旨は、国鉄バスは現在3台の認可を得た貸し切りバスを持っているわけですが、しかし内外から国鉄バスはこの許可された3台以上の貸し切りバスが運行されているんじゃないか、あるいは無許可運行ではないか、安全に責任が持てるのか、そういう批判が内外からございます。これに対して事実関係はどうかということを質問いたしました。

市の答弁は、おおむね、館山で許可されている台数が3台、八日市場で許可されている台数が3台、この6台を多忙時に館山で運行する場合があるんだ。2つ目は、60年度の実績なんです、貸し切りバスを600台運行している、そのうちの1割強が臨時便として運行されている、この臨時便については陸運局の許可を得てやっている、そういう国鉄さんのお答えでしたという答弁があったわけです。

これに対して、私の方から、貸し切りバスの許可の条件は各事業所に与えられるんであって、例えば館山で3台で間に合わないために八日市場のバスを借りてくるとか、その名義を借りてくるとか、そういうことは認可としてはあり得ないはずだがどうかということが1点。

2点目が、1割強が臨時便として運行されているようですけれども、これについて陸運局の認可をとってあるということなんで、私の方の調査ではそのような認可申請の事実はないというふうに聞いている、これに関して陸運局から事実関係だけを問い合わせて——そのときに市の方の調査がございませんでしたので、総務委員会の場で報告を願いたい、そういう要請をいたしました。

その後、市の担当課の方から、総務委員会で一般質問の補足説明としたいというお話があったんで私も了解したわけですが、どうもけさになりましてその扱い手続きがされていませんようですので、この決算の質疑の場で先ほどの2点のことにつきましてお答えを願いたいというふうに思います。

○議長（伊賀多朗君） 暫時休憩いたします。

午前11時07分 休憩

午前 11 時 09 分 再開

○議長（伊賀多朗君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

○市長公室長（斎藤武男君） 国鉄館山自動車営業所の貸し切りバスの関係でございますが、この関係につきましては先だって御答弁申し上げたとおりでございますけれども、この内容については営業所長から事情を聴取いたしまして、その内容を申し上げたわけでございます。

その後、田沢議員さんの方からただいまお話のありましたような許認可の関係について事実はどうなんだというようなお話もございましたので、改めて営業所長をお呼びいたしましていろいろお話をしたわけでございます。もちろん市は監督権もございませんし、許認可の関係もございませんものですから、事情を申し上げまして協力をお願いしたわけでございます。その中で、このようなコメントを寄せられましたので、それをお読みいたしますのでよろしくお願いをしたいと思います。

「国鉄改革については国会の中で論議され、民営化の法律化に向けて改善に努力しているところであります。もとより国鉄バスの貸し切り収入は全体収入の 5% に満たない実績であり、民間ですと 30% 程度となっているため比較されているところでございます。貸し切り運送についての国鉄バスは全国的に免許区域の限定と免許許可数が少ないことで秩序が乱れた実情にあったため、全国バス協会と運輸省との指導によって具体的な検討に入り、千葉県においても秩序維持を図るため千葉県バス協会と国鉄で協議し、円滑な輸送秩序を図るため相互の理解を得たところであります。国鉄バスも地域発展と職員の生活を守る立場から努力いたしておりますので何とぞ御理解を賜りたく御協力をお願いいたします。」このようなコメントが寄せられております。

以上でございます。

○2 番（田沢勝信君） 大変難しいコメントなんですが、1 つは先ほど質問いたしました八日市場の台数を館山で運行する、これはあり得ないことですし、あってはならないことです。それと、2 点目のいわゆる許可申請をしないまま臨時便を運行させている。これはバスに乗る方ですと誰でもわかるんですが、臨時便の運行は許可証がバスの中に張られるんです。団体名とその隣に張られるんです。ですから、どなたでも少し

専門的な知識がある人がバスを利用しますと、このバスが許可されているのかいないのか簡単にわかる仕組みになっております。そういう中で出されている指摘ですから……。しかも、陸運局には昨年度実績でいても1通も申請されてない、そういう事実があるわけです。

そういう2つの事実を踏まえた上で、私は所長が市の皆さんにある意味では丁寧さを欠く答弁をし、そのことに対して陳謝もし、それを踏まえて、現在の国鉄の実情を踏まえて先ほどのコメントになったんだ、そういうふうに理解するわけですが、いかがですか。

○市長公室長（斎藤武男君） 本会議で御質問いただきまして、その内容につきましては先ほど申し上げますように市には監督権もございませんし、許認可の関係もございませんので、御協力をいただいたわけですが、結果的にはただいま田沢議員さんがおっしゃったような内容になっているようでございます。

○議長（伊賀多朗君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

決算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任

○議長（伊賀多朗君） お諮りいたします。

ただいま議題となっております認定第1号乃至認定第8号昭和60年度各会計決算につきましては、10人の委員をもって構成する決算審査特別委員会を設置し、これに付託の上、審査することにいたしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（伊賀多朗君） 御異議なしと認めます。よって、決定いたしました。

重ねてお諮りいたします。ただいま設置されました決算審査特別委員会委員の選任については、委員会条例第4条第1項の規定により、

3 番議員	山中金治郎君	4 番議員	小宮 利夫君
8 番議員	日下 君敏君	10 番議員	川名 正二君
12 番議員	石井 謀君	14 番議員	伊藤幸太郎君
15 番議員	渡辺 昭夫君	17 番議員	近藤 好雄君

19番議員 黒川 平治君 27番議員 安西 益男君

以上10名を指名いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(伊賀多朗君) 御異議なしと認めます。よって、ただいま指名いたしました10人の諸君を決算審査特別委員会委員に選任することに決しました。

ただいま選任されました決算審査特別委員会委員の方々は、後ほどこの議場において正副委員長の互選を行いますので御了承願います。

延 会 午前11時17分

○議長(伊賀多朗君) お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(伊賀多朗君) 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明9月19日から25日まで議案審査のため休会、次会は9月26日午前10時開会といたします。その議事は、議案第53号乃至議案第58号、認定第1号乃至認定第8号に係る各委員会における審査の経過及び結果の報告、討論、採決並びに追加議案の審議といたします。

この際、申し上げます。各議案に対する討論通告の締め切りは9月26日午前9時でありますので申し添えます。

○本日の会議に付した事件

1 認定第1号乃至認定第8号

1 決算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任

